

第101回津久井地区まちづくり会議全体会結果

- ・日 時:令和5年7月11日(火) 午後7時00分～8時10分
- ・場 所:津久井総合事務所 3階 第1・2会議室
- ・出席者:委員20名出席(2名欠席、1団体未選任)
- ・傍聴者:なし

1 開 会 高井副代表

2 代表あいさつ 熊谷代表

3 情 報 提 供

(1)次期一般廃棄物最終処分場の現状について(清掃施設課)

- ・昨年度までに実施した内容や各地域からの意見、整備上の課題について説明を受けた。

<主な意見等>

○先日、施設を見学したが水槽容量に課題があると感じた。現在の最終処分場の水槽容量は12,000 m³だが、40mm の降雨で一杯になったと聞いた。最近の降雨量を踏まえると足りないのではないかと。水槽から溢れたら垂れ流しになってしまう。

⇒現在の最終処分場には12,000 m³超の調整槽があり、浸出水を貯留している。過去には大雨で1日で3,000 m³たまったこともある。近年の降雨は局所的に多量に降るので大きな水槽が必要となる。

○水槽のことは、課題であると感じる。課題一覧に追記するべきではないか。

○山地整備の場合、埋立てはダム方式になり、平地では池方式になると認識している。工事の違いを説明してほしい。

⇒埋立地の構造は今お話をされた構造になると考えられる。

工事の違いは、山間部の場合、法面保護をしっかりと講じなければならない。平坦地の場合には山間のような大規模な法面对策は不要となる。

また、候補地5と6(根小屋地区)については最終処分場を整備する場所への道路がない。資材や重機を運びこみ工事するためには、最初に道路から整備しなければならない。この点は麻溝地区との大きな違いである。

○下水道について、神奈川県との協議が難航している理由は水質なのか、水量なのか。茅ヶ崎の処理場のことなのか。

⇒水量である。終末処理場もそうだが、途中の幹線やポンプなども関係する。流入量が増えた分を許容できるか、個々に確認する必要がある。

○水量が問題とは考えにくい。水量は建前であって本当は重金属などの水質が原因ではないのか。

⇒水処理後に放流するため、水質については問題ないと認識している。

○水源地に整備することの深刻さを理解しているのか。市長が最終的に決定するというが一人で決めるには重すぎる。審議会ではどのような気持ちで水源地を選んだのか。候補地選定審議会の委員の資質に疑念を抱く。

⇒いただいた意見は理解できるし、水源の重要性も認識している。

神奈川県内は最終処分場を整備する土地がなく、どの自治体も苦慮している状況である。本市においても立地可能な土地が少ない状況にある。審議会では最適地を選び抜く形ではなく、困難性が高い候補地を落選させるような選定となった。

⇒水質の心配などを伺ったので、今後、その辺りを改めて説明させていただきたい。

4 協議事項

(1) 津久井地区まちづくりを考える懇談会について

・懇談会までのスケジュールについて事務局から説明を行った。また、9月12日の全体会については実施せずに、部会を強化していく方向でいる旨を伝えた。また、各部会長から部会における進捗状況の報告を受けた。

○つくい元気部会……………空き家対策についての取組や、アンケートの実施等について引き続き検討を行っていく。

○明日のつくいを拓く部会…リニア回送線の旅客線化や、有人ドローンの実現に向けて引き続き検討していく。

5 その他

(1) 令和2年国勢調査に基づく将来人口推計について

・6月2日に発表された「令和2年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計」の概要について事務局から情報提供を行った。

(2) 次回全体会の日程確認について

・9月12日に予定していた全体会は開催しない。次回は10月10日を予定している。早めに開催通知を発送することとする。

○秋本委員から、鳥屋地区の自然災害伝承碑「地震峠」に係る取組について、NHK(全国放送)で放送されること、また、防災国体にて神奈川県のブースが設けられ、そこに津久井高校の生徒が描いた漫画が展示されることについて紹介された。

①NHK 放送「明日をまもるナビ～ 日時:令和5年7月23日(日)午前10:10～11:00」

②ぼうさいこくたい2023「日時:9月17日(日)・18日(月祝日) 場所:横浜国立大学」

6 閉 会 佐藤副代表

以上